

【事例 1】住宅用火災警報器の鳴動により早い発見、通報につながった事例

焼損程度	ぼや	発見者	隣人	通報者	隣人
共同住宅の居住者（男性・50代）は、灰皿に溜まったたばこの吸い殻をビニール袋に入れ、飲酒をしながらそのまま就寝しました。その後、たばこの火種が吸い殻に着火し、出火したものです。 隣人が住宅用火災警報器の鳴動音を聞いたため、窓の一部を開けると中から白い煙と焦げ臭い匂いがしたため、火災の可能性があり、119番通報しました。 消防隊が到着後、屋内を確認すると居住者は寝たままであり、消防隊による掛け声で目を覚ましたものでした。住宅用火災警報器の鳴動音に気付いた隣人の早期通報により、人命が守られた事例です。					

【事例 2】住宅用火災警報器の鳴動により早い発見、通報につながった事例

焼損程度	部分焼	発見者	本人	通報者	本人
この火災は、居住者が軽油の付着した衣類を乾燥機にて乾燥中に乾燥機から出火したものです。 自宅2階で就寝中の居住者（男性・50代）は、住宅用火災警報器の鳴動音に気づき起床。住宅内には煙が充満、1階に下り洗濯機及び乾燥機がある脱衣所に向かったところ、乾燥機のドラム内から炎が出ていました。初期消火を試みるも消火できなかったため屋外に避難して119番通報しました。					

【事例 3】住宅用火災警報器の鳴動により早い発見、通報、消火につながった事例

焼損程度	ぼや	発見者	本人	通報者	隣人
住宅の居住者（女性・60代）は仏壇の灯明を消し忘れ、灯明のそばに立てていた写真が、ろうそくの上に倒れ掛かり出火したものです。 居住者は、住宅用火災警報器の鳴動音に気づき、仏間を確認しに行くと白い煙が充満していたことから火災だと思い、隣人に119番通報を依頼しました。					

【事例 4】住宅用火災警報器の鳴動により早い発見、通報、消火につながった事例

焼損程度	ぼや	発見者	本人	通報者	本人
この火災は、居住者（男性・50代）がカメラのバッテリーを充電中にバッテリーから出火したものです。 自宅2階で就寝中の居住者は、住宅用火災警報器の鳴動音に気づき起床。1階に降りていくと焦げた臭いがして、バッテリーが燃えていたため鍋に入れた水道水で消火しました。					

【事例 5】住宅用火災警報器の鳴動により早い発見、通報、消火につながった事例

焼損程度	ぼや	発見者	本人	通報者	隣人
居住者（男性・90代）は、料理で使用したフライパンをガスコンロの火にかけて乾かしていたが、目を離した隙に周囲の台所用品に着火し、出火したものです。 居住者は、住宅用火災警報器の鳴動音に気づき台所に行くと、フライパン付近から炎が上っていたため水道水をかけて消火をしました。 隣人は住宅用火災警報器の鳴動音を聞いたため、119番通報しました。					